

企業活動に関する取り組み

企業活動における環境負荷低減への対応

企業活動における取り組みの方向性

Hondaは2010年に、2020年に向けての方向性を「良いものを早く、安く、低炭素でお客様にお届けする」と決めました。そしてその実現に向けて、「気候変動問題、エネルギー問題」「資源循環問題」「水資源問題」「環境負荷物質問題」への対応という4つの方向性で、あらゆる環境負荷低減に取り組んできました。

2014年度～2016年度 中期環境取り組み計画の方向性



※1 VOC(揮発性有機化合物):主に塗料やシンナー中に含まれる有機溶剤に由来する光化学オキシダントの原因となる化学物質

企業活動における中期環境取り組み計画

Hondaでは3年間をひとつの「中期」として、中期ごとに事業計画や営業計画を策定し、その方針に沿った施策を実行しています。日本地域でも、環境負荷低減について3年ごとに「企業活動における中期環境取り組み計画」を策定。その中で環境側面の重要課題に対応していくための方向性に従って、CO₂排出量、廃棄物等発生量、水資源使用量、VOC^{※1}排出量の低減目標を設定し、企業活動全体での環境負荷低減を推進しています。

2014年度～2016年度の取り組み計画 実績

2014年度～2016年度の取り組み計画では、環境側面の重要課題への対応として定めた方向性に従って、「CO₂排出量原単位を7%低減」「廃棄物等発生量原単位を11%低減」「水資源使用量原単位を32%低減(いずれも2000年度比)などの目標を設定。企業活動のそれぞれの領域において低減負荷低減を着実に継続してきた結果、すべての目標を達成しました。

2030年に向けた方向性

Hondaは2017年に、今後も存在を期待される企業であり続ける為に、「2030年ビジョン」を定めました。そして、その実現に向けた環境面での取り組みの方向性として「クリーンで安全・安心な社会へ」と掲げ、カーボンフリー社会の実現をリードする存在を目指しています。企業活動においても引き続き、CO₂排出量の低減だけでなく、廃棄物等発生量や水資源使用量、化学物質排出量など、あらゆる環境負荷の低減を着実に推進していきます。

企業活動に関する取り組み

[2014年度～2016年度 企業活動における中期環境取り組み計画 目標と実績]

1

気候変動問題、エネルギー問題への対応
製品ライフサイクル観点で全体の取り組みを強化

2

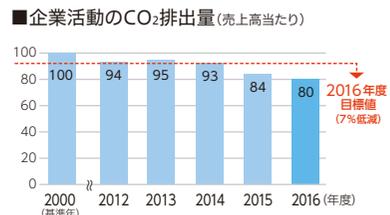
資源循環問題への対応
3R(リデュース・リユース・リサイクル)のさらなる進化

取り組み目標

2016年度までの実績

売上高当たり
CO₂排出量原単位を
2016年度までに7%低減
(2000年度比)
対象範囲: 企業活動
(Hondaと主なグループ会社※1)

20%低減
(2000年度比)



〈実行施策〉

- 工程ごとのエネルギー使用量の見える化で、効率よい生産システムへ見直し
- 「Honda Green Action」のグループ全体への展開(節電、空調運転時間の改善、効率と快適性のバランスの取れた空調方式)
- 高効率機器の導入(LED照明、熱源機器、ボイラー、IPMモーター)

※ データ修正(2018年7月)

取り組み目標

2016年度までの実績

売上高当たり
廃棄物等発生量原単位を
2016年度までに
11%低減
(2000年度比)
対象範囲: 企業活動
(Hondaと主なグループ会社※1)

26%低減
(2000年度比)



〈実行施策〉

- プレス端材の活用拡大
- 内外装リターナブルケースの適用拡大による包装資材低減
- 歩留り向上で副産物発生抑制

※ データ修正(2018年7月)

取り組み目標

2016年度までの実績

輸送領域でのCO₂排出量低減
輸送導線および輸送形態の見直し /
コンテナ詰率の向上および
コンテナラウンドユース継続
対象範囲: 省エネ法荷主範囲

輸送領域CO₂排出量の
低減施策の継続展開

〈実行施策〉

- 取引先との連携で輸送の効率化
- 船・鉄道を活用した輸送形態への転換で
モーダルシフトの拡大および船舶輸送率の向上
- コンテナ詰率の向上とコンテナラウンドユース継続

取り組み目標

2016年度までの実績

廃棄物直接埋立ゼロ化の継続
対象範囲: 企業活動
(Hondaと国内連結全事業所)

Hondaと国内連結
全事業所(119/119社)で、
廃棄物直接埋立ゼロ継続

※1 Hondaと主なグループ会社: 本田技研工業(株)と(株)本田技術研究所、ホンダエンジニアリング(株)、(株)ホンダアクセスの範囲

企業活動に関する取り組み

[2014年度～2016年度 企業活動における中期環境取り組み計画 目標と実績]

3

水資源問題への対応
水資源使用量の最少化

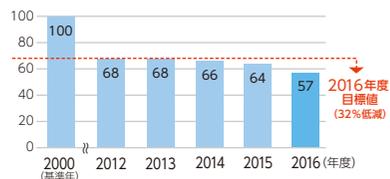
取り組み目標

2016年度までの実績

売上高当たり
水資源使用量原単位を
2016年度までに**32%低減**
(2000年度比)

対象範囲: 企業活動
(Hondaと主なグループ会社※1)

■企業活動の水資源使用量(売上高当たり)



〈実行施策〉

- リサイクル水、雨水の活用継続
- 節水活動の推進継続
- スマートシャワーテスター開発

※ データ修正(2018年7月)

4

環境負荷物質問題への対応
生産工程でのVOC※2排出の低減

取り組み目標

2016年度までの実績

製品塗装からの
VOC排出量低減

VOC排出量の
低減施策の継続展開

〈実行施策〉

- 「Honda Smart Ecological Paint」の展開
- 4コート・3ベーク溶剤塗装から、3コート・2ベークの中塗り工程を廃止した水性塗装に
- 塗装工程における低VOC塗料の導入
- 研究開発段階の試作モデルにおける低VOC塗料の採用

※1 Hondaと主なグループ会社: 本田技研工業(株)と(株)本田技術研究所、ホンダエンジニアリング(株)、(株)ホンダアクセスの範囲
※2 VOC(揮発性有機化合物): 主に塗料やシンナー中に含まれる有機溶剤に由来する光化学オキシダントの原因となる化学物質